

# 英語スピーキングにおける語彙、文法使用の検証

英語班 北本早有羅 澤田佳那子  
辻田菜々子 中谷優花

## 1. はじめに

高校生の多くは英語スピーキングに対して苦手意識を持っている。そこで苦手意識を持つ原因と解決策を探るために2つの実験を行った。1つ目は英語母語話者と日本語母語話者が使用する文法と語彙の違いを明らかにすること、2つ目は高校英語教員と高校2年生の、わからない語彙・表現がでてきた時の対処法の違いを調べた。これらの違いを明らかにすることで、日本の高校生のスピーキング学習に示唆を与えることができるのではないかと考えた。

## 2. 研究の過程

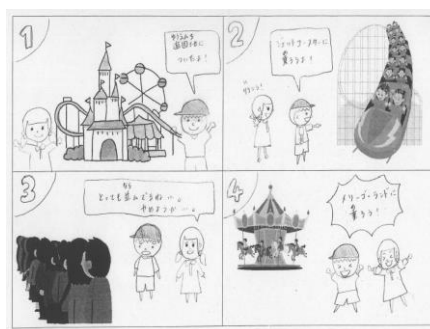
### 【実験1】 文法と語彙についての実験

被験者：英語母語話者 5人

高校英語教員 5人

高校2年生 5人

- (1) 被験者が英語で4コマ漫画の内容を説明する。
- (2) 使われた文法や語彙の違いを調べる。



使用した四コマ漫画

<仮説>高校2年生は時制が一致せず、語彙使用についても誤りが見られる。

高校英語教員は文法、単語ともに誤りはないが、詰まってしまうことがある。

英語母語話者は文法、単語ともに誤りがなく、詰まることもない。

### 【実験2】 コミュニケーションストラテジーについての実験

被験者：高校英語教員 5人、高校2年生 5人

- (1) 被験者に英語母語話者と3分間、週末の予定について話してもらう。
- (2) それぞれが使うコミュニケーションストラテジー（会話中に理解できない、または言えない単語が出てきた時に解決するための方策）を下記の3つのパターンに分けて分類、比較を行う。

3つのパターン…伝達回避型：わからない語彙や表現の使用を避けて、黙り込んだり全く異なる話題に変えたりするもの。

共同解決型：わからない語彙や表現について聞き手と共同して 会話を完成させるもの。

自己解決型：わからない語彙や表現について、聞き手の助けを求めず自分の力で別の表現に言い換えて会話を完成させるもの。

<仮説>英語でのコミュニケーションに慣れていない高校2年生は伝達回避型の傾向が強く、英語でのコミュニケーションに慣れている高校英語教員は自己解決型と共同解決型のストラテジーを使いながら円滑にコミュニケーションを図ることができるのではないか。

### 3. 結果・考察

《結果》

- 【実験1】 高校2年生は時制が一致せず言葉に詰まることがあった。  
高校英語教員は時制が一致しないこともあったが詰まらずに話せた。  
英語母語話者は語彙や文法の間違いがなく、つまらずに話せた。  
それぞれが使っている語彙や文法を比較すると、大きな違いはなかった。  
以上の結果から、高校生でも英語で内容を十分に伝えられる力があるとわかった。
- 【実験2】 高校英語教員…共同解決型と自己解決型の両方の傾向をもつ。  
高校2年生…共同解決型と伝達回避型の両方の傾向をもつ。  
以上の結果から、高校生は伝達回避型だけではなく、共同解決型も使用してコミュニケーションを行っていることがわかった。
- 【総合結果】 会話中に沈黙、言い淀みがあっても会話が続けば共同解決型であり、会話は成立しているとみなされる。このことから高校生は十分に英語を話す力を持っているということがわかった。

《考察》

この実験で、高校2年生は受動的に、高校英語教員は積極的に会話を成り立たせるという違いがみられた。ただ、高校生でも十分に英語で話すための基礎力が身につけていることがわかった。よって、スピーキング能力に自信を持ち積極的に会話を成り立たせるように自分からはたらきかけ、外国の人と会話することを楽しむことが、高校生のスピーキング能力の向上に役立つのではないか。

### 4. 参考文献ならびに参考Webページ

- JACET SLA 研究会 (2013) 第二言語習得と英語科教育法  
田所真生子 (名古屋大学大学院国際開発研究科講師) (2001) 外国語学習における学習者の情意要因に関する考察  
公益社団法人 日本経済研究センター  
『英語力がビハインドを招く国際競争力の低下ー「早期」「選択と集中」「実用」に基づく教育改革を通じ、国民的英語コンプレックスからの脱却をー』  
ベネッセ教育総合研究所 (2014) 『中高生の英語学習に対する事態調査 2014』  
( <http://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=4356> )  
佐々木良造 (2007) 『発話能力を補うコミュニケーション・ストラテジーとは』